

S.G. Report

平成29年度 SG講演会

挑戦、失敗、やり抜く意志～スーダン、東北でのNPO活動～

- 日 時：平成29年10月6日（金）
- 場 所：本校体育館
- 対象者：全校生徒および希望保護者
- 講 師：医師 NPO法人ロシナンテス理事長 川原 尚行氏

ひとはみんなの為に、みんなはひとりの為に
 特定非営利活動法人ロシナンテス
 ROCINANTES
<https://rocinantes.org/>



【講師プロフィール】

福岡県北九州市生まれ。「人のために生きよ」という言葉が幼いころから心の中にあり、医師を目指し、1992年九州大学医学部を卒業、九州大学第二外科（現在の消化器・総合外科）へ入局し臨床医となる。九州大学臨床大学院（生化学）を終了し、博士号を取得。2002年から在スーダン日本大使館の医務官として赴任。しかし、赴任先のスーダンで政治事情により医療の届かない住人を目の当たりにし、官僚の限界を痛感。スーダンの支援を続けるため外務省を辞職。その後、現地で医療活動を行うべくNPO法人「ロシナンテス」を設立し、活動を続けている。

【生徒感想】

●今日の講演会を通じて私の中の「支援」の定義が変化したように思えた。私はかつて支援とは技術や社会的体制が整った人（国）が、そうでないものの世話をしてやるようなことだと思っていた。けれども、実際はそのような考え方は、相手の国の発展を妨げるものであると分かった。今すぐに手が届く結果よりも、長い目で考えた時の結果の方が、実りの多いことがあるようだった。表面的なものばかりを整理すれば、それらは、すぐに風化していけよう。しかし、教育や生産手段といった根の部分の整備をすれば、それを基礎にして立派な国という家を建てることができる。現代の日本では文字、医学法学と細かに分けられた分野で活動する人が多い。ただ、その専門の知識だけでは、何の広がりもない事物が出来上がるだけだろう。ルネサンスの時に言われた万能人を目指す人が世界を変えていけよう。私はその理想に近づいていけるような人間になりたい。

●川原医師は幼少時代の「人のために生きよ」という教えのもと、今日まで活動されている。中にはたくさんの失敗もあったそうだが、川原医師のスーダンのためにライフラインを整備したり、診療所を建てたりと、



少しでも役に立ちたいという意思には頭が下がる。もし自分だったら、自分が始めても・・・今の仕事安定しているから・・・アフリカの国は治安や衛生が悪そうだから・・・とってしまうはずなので、自分も人のために何かをしたいと思えるような人になればと思った。アフリカの国々はまだまだ発展途上なので、川原医師のような活動がアフリカ中に広がって、生活が良くなればと思った。済々夔はSGなので川原医師のような人が将来出てきたらいいと思う。

●私はこの講演で色々なことを考えさせられた。これまでずっと人間は自己中心的な生き物だと思っていた。人間の行動は最終的に自分の利益のために働くものだと思っていたが、川原先生はあそこまで自分の身を削って困っている人々のために行動しており、考えを変えさせられた。そして、私も初めて困っている人のために行動したいと思えた。もう一つ心動かされたことがある。それは、川原先生



の出会いを大切にしている姿勢だ。スーダンでも東北でも人とのつながりをすごく大切にしていたし、スライド係に立候補した守尾くんや、お礼の言葉を述べた生徒とも一人ずつ握手していたことが印象的だった。私にとって今回の講演は、有意義という薄っぺらい言葉では言い表せない程すごく素敵で革新的だった。

●私は今日の講演を聞いて、自分のこれからの人生について考えました。川原先生は外務省という良い職に就いていたのを辞職して、自分の信念に従って自ら厳しい道へと身を投じられましたが、今の私にはそんなことは到底無理だと思いました。今の浅はかな自分ではよい大学に行って良い仕事につくという道を諦められないし、地位やお金を顧みずに人生を人のために捧げる姿は今想像できません。しかし、私も人は人のためにあるべきだと思います。川原先生の行動力や励まされた人の声にはとても感化されたので、大学やこれからの生活で自分が何をしたいか、何をしなければならないかを熟考し、人のための人になりたいです。

●今回の講演からは、人生の価値観について、自分と川原先生との違いをまざまざと見せつけられた。後先の事にあれこれ思考を巡らせるのではなく、自身の好奇心や感性の赴くままに行動してきたという川原先生の発言には衝撃を受けたと同時に、心のどこかに妬みを覚えた。そのような川原先生の考え方の背景には、予想だにしない失敗や挫折をも力に変えるような断固たる決意があり、そして、それこそが遠く離れたアフリカへの一助となっているのだと思う。人生こそが挑戦。今に感謝しつつ、これからも様々な事に果敢にチャレンジしていきたい。

●今日の講演を聞いて、政府に従うことよりも自分の心に従った川原さんはとても強い信念を持っていらっしゃるなあと思いました。スーダンでの支援は医療だけとどまらず、学問やインフラ整備にも及んでいるということにとっても驚きました。スーダンや東北など、川原さんが支援をしてこられた現地の方々もとても笑顔ですてきな人の周りにはすてきな人が集まるものだなあと思いました。とても心に響いたので、ロシナンテスやスーダン、アフリカの現状について調べてみたいと思いました。今回川原さんのお話を聞いて、もっと世界に視野を広げて自分だけのことを考えているのではいけないと痛感しました。

●川原先生の話はとても面白かったです。川原さんは一度外務省に入ったにも関わらず、南アフリカスーダンで治療をしたり、診療所を建てたりして、貢献しているのですごいなと思いました。ある子どものお腹が膨張している写真を見て、私は水が溜まって膨らんでいるのだと思いました。ハエにかまれ害虫がいっぱいになっていると知り、正直、ゾッとしました。アフリカでの暮らしはとても大変なものなのだと感じました。東日本大震災のとき、川原先生が現地に来ていたことを知り、嬉しく思いました。「みんなラジオ体操をしましょう！」という提案がまさか、川原先生だったとは知りませんでした。また、スーダンの人は自分があまり余裕がないのにも関わらず寄付金をくださったことにも感動しました。東北の人にもスーダンの人にも感謝され、川原先生は本当にすごい人だと思いました。私も人のために動き、人に感謝されるような人になりたいと思います。



<https://rocinantes.org/>

●今日の講演で一番学んだものは、「幸せを感じる something を見つける」ということです。現在私たちのいる日本は、世界的にも、発展した国であり、自分が望んでいるものは何でも手に入ったりします。しかし、それが全て幸せかというところではありません。何かがないと不満に思います。しかし、スーダンの話で、とても質素な食事、でもそれが、とても幸せを感じるという話を聞き、品数があるからといって幸せとは限らないと思いました。なので、限られた中で幸せを感じる something を探すということを大事にしたいです。

●今回のSG講演会で私は、真の支援について考えさせられました。支援や援助という食料や水をあげたり、医者を送り込んだり、学校をつくったりというイメージがありました。確かに間違いではないとは思いますが。しかし、一番重要なのは、現地の人々がそれが無くなったとしても自分たちの力で生きていけるようにすることだとわかりました。瞬間的に良くなったとしても、それが継続できないなら意味がないし、依存した状態では意思が無くなっていくと思います。意思や思想が無くなり等一されると、争いは起きないのかもしれませんが、それでは世界の良さというのが無くなっていきます。十人十色だからこそ新しい意見が生まれたり、自分の考えが伝わったり逆に相手の考えがわかるという喜びが得られるのです。そういう小さなことが積み重なって心の豊かさが生まれると思います。「何もないけど何かある」その何かは人によって違うかもしれないけれど相手の何かを尊重できる人になりたいです。一人一人がそうすることで気持ちがつながり、互に助け合えるような価値がつけられない何ものにもかえられない関係がつかれると思います。今日の講演は心に残る言葉が多く、卒におさまらないほど興味深かったです。

●今日のSG講演を聞いて何かを決めなければいけない時は、人生で何度も出会い自分でしっかり決めるのが改めて大事だと思いました。何かをやりたいと思う気持ちも大切で、それを実行していくのも大切だと学びました。失敗を繰り返して成功にたどりつかれ、実際に成功されているので、失敗も大切というのを改めて考えることができました。これから失敗を恐れず、目的を達成するために頑張りたいです。川原先生は、行動力が本当にすごいなと思いました。行動力も成功するための要素の1つだと思いました。私は行動力がかけていると思うので、行動力をもっとつけて、自分で何事にも選択していきたいです。

●私は、今日のSG講演会を聞いて「人のために生きる」ことがどれだけ素晴らしく輝いているのかを身にしみて感じることができました。川原先生の行動力は他の人以上に「人を救いたい」「人を幸せにしたい」という強い思いを感じました。今日のお話で川原先生の生の体験談を聞き、人間住む場所や、環境、顔などありとあらゆる面が違って、考え、思いという心は同じなのだなと思いました。だから差別や偏見をなくし、みんなが平等に接していけば、1人1人がただ少し意識してみるだけでも世界が変わってくると考えました。だから、精一杯今自分にできる人のためになることを積極的に取り組んでいきたいです。

●講演会を聞いて「人のために生きよ」という言葉がとても心に残りました。目の前にいる人を救えなかったということで自分の仕事をやめて誰かのためにできることをやるという行動力はとてもすごいと思ったし、私がこれから生きていくうえで心にとめておきたい考え方だと思いました。そしてそれを受け止めた家族の方もとてもすてきだと思います。今回の講演会を通して私自身の人生観が代わったような気がします。私も目の前の困っている人のために大切なものを失ってまで助ける行動力を身につけたいです。





<https://rocinantes.org/>

●序盤の寄生虫によってお腹が大きく膨らんでしまっている子どもの写真を見て自分は衝撃を受けました。「アフリカは貧しく、病気や争いが多い」という漠然としたイメージしか自分にはなかったもので、初めて具体的な事情を知る事ができ、とても心に残りました。そして、スーダンの危険な状況をなんとかするために、外務省を退職して、医療や教育インフラなど様々な面で支援をするために自らでNPO法人を立ち上げるという川原先生の自分のしたい事をやり抜く意志、信念がとてもすばらしいなと思いました。学校の建設や、医療の発達など、数々の大きな成功の裏に、数々の失敗があり、「人のために生きる」ことの難しさも感じました。川原先生が和室に付けた名前「無東西」僕はこの言葉がすごく心に残りました。

人間が宗教や人種、文化などの違いでつくる区別、これを取り払って、この部屋では過ごしてほしいというメッセージがもっと世界に伝わってほしいなと思いました。自分も「人のために生きる」ことができるように、物事をやり抜く意志を持って日々の生活から見直して改善していこうと思いました。今回はとても貴重な講演をしていただき本当にありがとうございました。

●川原先生は、幼い頃、和尚さんに聞いた「人のために生きる」という言葉のとおり、人のために生きておられるなと思いました。アフリカのスーダンでの活動は紛争や、様々な病気など、危険な状況に見をおく、命がけの活動だと思います。それにも関わらず、治療や、井戸を掘ったり、学校を建設するなど、数多くの事業を行うことは、すごいことであり、素晴らしいと思います。東日本大震災が起こった時には、現地で支援活動を行われたり、同じような大きい地震を経験した僕たちからしたら、現地の方は、とてもうれしかったと思います。僕も海外にはいきませんが、日本国内でさまざまな「人のため」になる活動を行ってみたいと思いました。



<https://rocinantes.org/>